

R

KANSAI
UNIVERSITY
NEWSLETTER

Man is a Thinking Reed.

Reed

No. 46

August, 2016

関西大学ニュースレター

発行日：2016年(平成28年)8月31日

発行部局：関西大学 総合企画室広報課

〒598-8601 大阪府吹田市山手町3-3-35

TEL.06-6368-1121

http://www.kansai-u.ac.jp/

この伝統を、超える未来を。

130

KANSAI
UNIVERSITY

■対談 中野 星子 日本航空株式会社 執行役員 西日本地区支配人 / 楠見 晴重 学長

グローバル人材育成の 環境づくりを

多様性、異文化交流が真の国際人を育てる

■リーダーズ・ナウ —5

在学生—システム理工学部 4年次生 上垣 那津世 さん

卒業生—華道家 西村 良子 さん

■研究最前線

絵本や児童文学の魅力を探る

絵本の力を伝える案内人として —7

外国語学部 — 石原 敏子 教授

金属錯体の合成による抗がん剤の研究

多様ながんにも有効な治療薬を目指して —9

化学生命工学部 — 中井 美早紀 准教授

■トピックス [学内情報] —11

関西大学創立130周年記念事業

日本・オーストリア両国公演「豊臣期大坂図屏風コンサート」

一つの屏風が 日本とオーストリアの歴史と音楽をつなぐ ほか

■社会貢献・連携事業 —13

老川典夫教授と福山黒酢との共同研究

果実の風味を楽しめるドリンク「生フルーツ黒酢」を開発 ほか

■関大ニュース —15

熊本地震で被災された方への支援活動を展開

日本赤十字社を通じ、災害義援金を寄付 ほか

HIKANO



グローバル人材育成の環境づくりを

多様性、異文化交流が真の国際人を育てる

中野 星子

●日本航空株式会社
執行役員 西日本地区支配人

楠見 晴重

●学長

関西の、更に日本の成長発展や社会的な課題解決には、女性の活躍を推進しようという機運が高まる中、多様な価値観を認める国際化社会に対応した人材育成が望まれる。中野星子さんは、日本航空の女性総合職1期生として入社。持ち前の明るさと誠実さでさまざまな苦難を乗り越え、女性として初の執行役員西日本地区支配人に。今年で就任3年目を迎える中野氏と楠見晴重学長が、グローバル人材の育成と異文化交流の重要性について語り合った。

◆女性の社会進出は、企業競争力の強化に

楠見 日本航空(JAL)西日本地区支配人というのはどのような責任を担う業務でしょうか。

中野 私どもの西日本というのは、近畿、中国、四国地方の2府13県で、当該地域の支店長的作用を担っています。空港や支店、関連会社の方々など、JALの翼を支える約4,000人と共に働く、自称、チーム関西の“お母ちゃん”です。大阪のお母ちゃんなので、いつもカバンにアメちゃんを入れています。

楠見 頼れる存在ですね。JALは学生の頃から就職したいと考えておられたのですか？

中野 学生時代に文部省(当時)の交換留学生として米国・カリフォルニアに赴いた際、その往復の飛行機がJALでした。夢や希望など多くの人々の思いを乗せて、新たな世界に運んでくれる、航空会社は素敵な会社だと何となく思っていました。インターンシップもない時代で、留学から戻った秋は、まさに就活のシーズンでしたので、学生課に貼られた採用募集の紙を見て単純に知っている会社、5社に絞り込みました。当時、JALだけが女性の総合職を募集していたことも大きく、また先ほどの思いも重なって入社を決めた次第です。男女雇用機会均等法施行の数年前でしたが、当時のJALは、半官半民ということもあり、一般企業よりも早く女性総合職の採用を始めたのだと思います。

楠見 JALで初めての女性総合職ということで、ご苦労もあっただけだと思います。

中野 入社後しばらくして、東京支店国際旅客販売部という旅行会社の営業職に配属されました。そこは、男性の花形の職場で、扱う金額も大きい上に、宴席も多く、取引先も男性だけの世界でし

たから、女性には困難だと言われていた職場でした。前任の男性社員と取引先に引き継ぎのご挨拶に行くと、「え、うちの担当は女性？」と面と向かって言われショックでした。社内でも営業成績が上がると「女性はやだね」、下がると「やっぱり女性には無理」と言われ、悲しい思いもしました。ただ、どうせ何か言われるなら、頑張ろうと逆にファイトがわき、常にベストを尽くしました。

また、本社に異動した時ですが、会議は全員男性。入っていると、「君は誰の秘書？」と言われることもありました。

楠見 JALだけではなく、当時はそれが一般的な風潮だったと見聞きしています。近年はいかがでしょうか。

中野 今では営業にも女性が普通に働いていますし、取引先に行っても、当時のようなことはありません。パイロットや整備士にも女性の活躍の場は広がっています。

楠見 かつての関西大学は男子学生が多く、“バンカラ”“質実剛健”のイメージでしたが、現在では、女子学生が4割を占めます。商学部的女子学生など、手に職をつけたいという気持ちで入学し、将来のことを考えながら非常によく頑張っています。勉学だけでなく、スポーツなどの課外活動の面でも、女子学生の活躍は素晴

らしいです。企業で女性の活躍に変化は見られますか。
中野 人口の半分は女性ですから、社会のニーズに対応するためには、女性の視点を積極的に事業運営に取り込む事が大切です。企業は、男性中心の仕組みから、異なった価値観、考えを持った人々の力を活かし、新たな発想と価値を創造するダイバーシティ経営に変わりつつありますので、女性活用はその第一歩です。女性活躍が、企業の競争力強化につながると思います。

◆グローバル化に対応できる人材養成を

楠見 航空会社は、学生から非常に人気のある業種の一つですが、企業はどのような人材を求めていますか？

中野 IT機器が非常に普及し、スマートフォンやパソコンで疑似体験できる時代だからこそ、学生時代にどういう実体験をしたかが重要だと考えています。社会人になると時間的制約が多いので、学生の間にはたくさんの友人をつくり、多種多様な経験を積んでいただきたい。学びや遊びを謳歌した方と一緒に働きたいと思いません。旅、ボランティア、留学、インターンシップなど何でも興味のあるものにチャレンジしてください。その結果が失敗の連続であっても成功体験でもいいのです。いろいろな経験をしてから企業に入ることをお勧めします。

就職はゴールではありません。会社生活の中ではさまざまな事が起きますが、多くの体験をした人は仕事に幅があり、付加価値のある結果を出せるでしょう。そこに男女の差はありません。採用面接においても、質問に対する正解はなく、その方がどういう考え方をしているか、人物そのものを見ている。画一的ではなく、自分の強み、個性を持っている学生を求めているのは、どの企業も同じじゃないでしょうか。

楠見 有為な人材を世の中に送り出していくのが大学の使命ですが、近年、大学への社会的要請としてグローバル人材の養成が挙げられています。本学では従来、海外への派遣や海外からの受け入れなど積極的な国際交流を行ってきました。大学における国際化が一層求められる中で、今の学生への提言をお願いします。

中野 グローバル化が進んだ今日では、ある国で起きたことは即座に世界中に共有されます。マーケットもグローバル化し、環境も急速に変化します。企業が生き残るにはイノベーションと国際的競争力が不可欠です。ニーズを把握できないと、適切な商品も、いいアイデアも生まれません。若い間に多くの国の人々と接し、バリューステムが国ごとに違うということも実感してほしいですね。もちろんコミュニケーション能力も必要です。海外の人々と接した経験があれば、何ら違和感なく、異文化世界に溶け込めますし、適応できますから、企業の中でも活躍の場が広がります。

楠見 関西大学では、国際化戦略として、グローバル人材を育成する環境を整えてきました。1年間の交換留学制度を設け、ベルギーのルーヴェン大学、中国の北京大学をはじめとする学生交換交流協定校が約100校で、今後も拡大する予定です。春、夏休みの短期語学研修、国際インターンシップなども用意しています。今の若い人は日本の居心地がいいからか、海外に出ることに消極的な傾向にありますが、疑似体験ではなく実体験を積んでもらうため、地道にやっというところとさまざまな取り組みを行っています。

Global Leaders

■対談



楠見 晴重 (くすみ はるしげ)

1953年大阪府生まれ。78年関西大学工学部土木工学科卒業。81年同大学大学院工学 研究科博士課程後期課程中途退学。82年関西大学工学部助手。90～91年英国 Imperial College 留学。関西大学専任講師、助教授を経て、2002年教授。07年環境 都市工学部教授となり、同年4月から学部長に。09年関西大学学長に就任。文部科学省 大学設置・学校法人審議会特別委員。一般社団法人日本私立大学連盟副会長、公益財団 法人大学基準協合理事、公益財団法人土木学会フェロー会員。主な共編著書に「地図環境情報学 地下を診る最先端技術」「アジア古物語 京都一千年の水脈」など。

また、留学から帰国した学生は留学アドバイザーとして、留学を考えている学生の身近な相談に応じています。実はここでも多くの女子学生が活躍しています。

中野 素晴らしい環境づくりですね。留学体験の素晴らしさを伝え、留学や異文化交流への興味が高まる好循環が生まれますね。

私も航空会社としても、海外に行きたいという若い方が増えてほしいですね。

楠見 海外体験に積極的でない大きな理由の一つは、英会話力でしょう。我々は英語教育に関しても改革を行っていき、その一

海外の異文化に目を向けられるような、一つひとつのステップを大学内で与えたい。また、それが楽しいということも分かってほしいですね。

つがチュートリアル・イングリッシュ。ネイティブのチューター(講師)1人につき、最大4人の学生という少人数制で、10日間集中で英語力を養います。英会話能力を高めるほか、英語に対する苦手意識をなくし、「自分にもできる」と感じてもらっています。

中野 日本国籍以外の方を採用する企業も増えてきています。日本が世界で生き残るためにも、言葉や文化の壁を乗り越えなければなりません。

楠見 グローバル化という点では、海外からの優秀な留学生を増やしたいですね。本学では、日本語や日本文化を教える留学生別科を設けており、その学生を含めると留学生数は現状1000人を超えますが、倍以上の規模を目指しています。人種、宗教、言語、文化の異なった多様な留学生と、異文化交流および共修の場で学ぶ大学。その中で人格を形成し自身の力を広げてもらおうと10年、20年後を念頭に、施策を実行しています。

中野 大学で異文化交流、多様性を体験できれば、それを端緒に留学にも興味が出てきます。良い方向に、ポジティブな形になっていくと思います。中国や韓国の方々は英語教育に非常に熱心で、ご家族全員で移住してでも英語をマスターしていると聞きます。

楠見 日本は少子高齢社会で、50年後には日本の人口が1億人を下回り、人口の4割近くが65歳以上になるとも言われています。日本はこれから国境を越えて展開しないと生きていけないという事実を、もっと強調しないとダメですね。海外の異文化に目を向けられるような、一つひとつのステップを大学内で与えたい。また、それが楽しいということも分かってほしいですね。

中野 私は留学で2つのことを学びました。1つ目は、日本人として日本のことを十分に知らないと感じ、日本人としてのアイデンティティの必要性を実感したこと。まず自国のことを知り、発信できないとグローバルな人材とは言えないと思います。2つ目は、留学先のアメリカで多くの国の方と接したことで、自分の価値観が絶対ではない、バリューシステムは1つではないと気づいたことです。例えば、中南米の友人は待ち合わせをする

と、遅れて来ることが少なくないです。そして、そのことで私が怒っても、相手は理解できず、キョトンとしています。自分の価値観を一方的に押し付けても意味がないと気づきました。そのようなことが存在する事実を体験することは、世界を相手に仕事をする上で大きな意味を持ちます。留学は非常に勉強になりました。

◆文化薫る大阪、関西の活性化を目指して

楠見 JALの西日本地区支配人に就任されて3年目。西日本、特に関西についてどういう感覚をお持ちですか？

中野 なんて親切で、温かみのある所だろうと感じています。道に迷っていると必ず誰かが「私がおもてなしに行きましょう」と道案内をしてくれずし、同じマンション内で誰もが挨拶を交わします。東京ではこういった人間的な場面に会おうのは本当に少なく、関西の方々の距離感はとても心地よいです。ひと月に3、4回東京本社で会議があるのですが、伊丹空港に着くと最近ではホッとします。

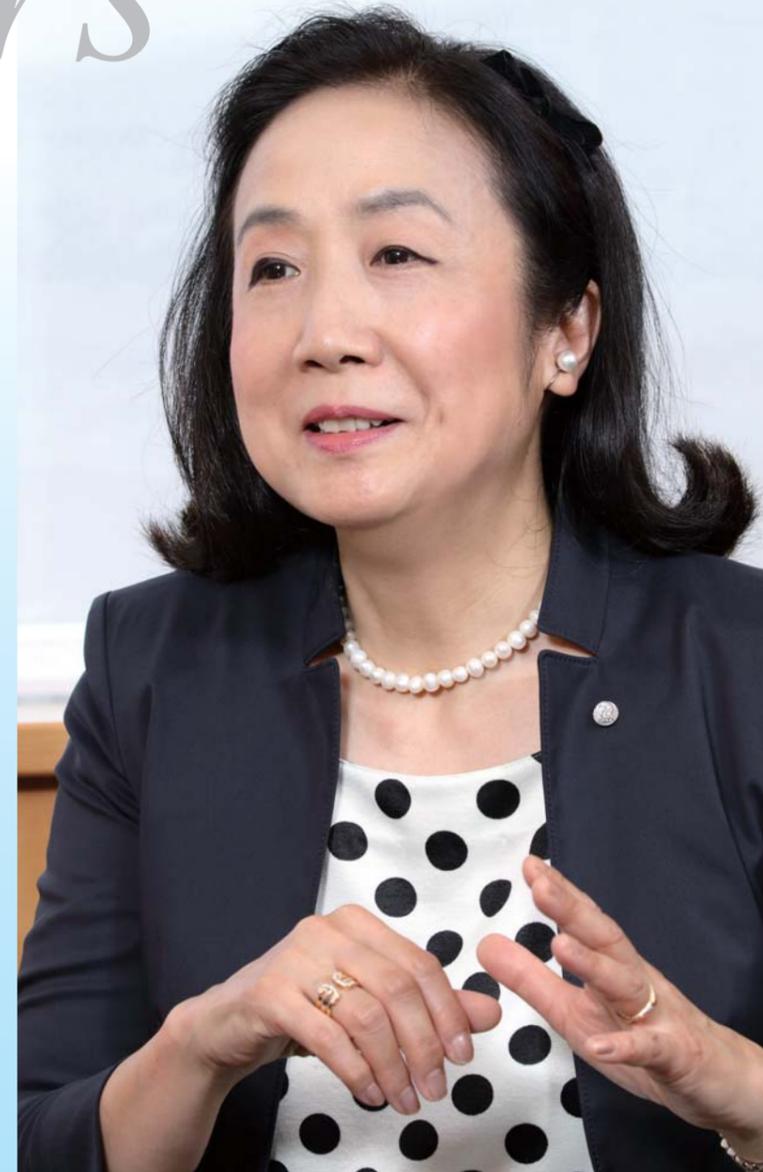
楠見 それはうれしいですね。関西大学は今年4月、大阪で生まれ育まれてきた大学としての社会的使命から、130周年の記念事業の一つとして、「なにわ大阪研究センター」を開設しました。商業都市のイメージが強い大阪ですが、実は長い文化の歴史があります。大阪を文化が薫る“まち”にするため、本学では豊富な文化遺産研究・地域連携の実績を結集し、次世代に継承・発展させ、都市の魅力を高めることで大阪の活性化につなげようとしています。

中野 実際に大阪に住んでみて、イメージが変わりました。“水の都 大阪”は、ピンとこなかったのですが、春には川沿いに桜が咲く中に、レトロな建物が立ち並び、確かに水辺に寄り添う暮らしのある風景だと感じました。大阪は民間の力で作られた“まち”なんですよ。

楠見 中之島の中央公会堂も夏の天神祭も民間の力で立ち上がりました。東京よりも大阪の方が活気づいていた大阪時代もありましたが、近年は東京へ本社を移す企業も多く、寂しいところです。大阪が活性化すれば、経済も活性化する。相互に関係しますからJALにも、ぜひお力をお借りしたいです。

中野 はい。ご存じだと思いますが、昨年8年半ぶりに、関空ーロサンゼルス便を復便しました。航空会社として関西に貢献する一番の方法は、増便だと考えています。お客さまや貨物、文化を双方向に運ぶという意味ではこれが一番。私自身、あと数便は増やしたいと画策していますので、試金石のロサンゼルス便の積極的な利用をお願いしたいです。
楠見 JALの更なる飛躍のための戦略があればお聞かせください。

中野 JALグループは「世界で一番お客さまに選ばれ、愛される航空会社」になることを共通の目標としています。日本人の持っている“おもてなし”は世界でも通用する言葉でありブランドです。お客様により快適にご利用いただけるサービスを提供することに、グループ一丸となって取り組んでいます。お客様のニーズも年々変化していきますが、それに対応しつつ、量より質の形で発展できればと思っています。例えば、エコノミークラスにしても、航空会社の中で、前席との座席間隔が最大級です。座席数を減らしても、快適な空間をお客様に提供したい、そういう方針です。



中野 星子 (なかの ほしこ)

1958年石川県生まれ。1982年に青山学院大学法学部卒業。日本航空株式会社の女性総合職1期生3人のうちの1人として入社。東京支店・国際旅客販売部などを経て、2014年女性として初の執行役員 西日本地区支配人に就任。15年に関西国際空港とロサンゼルス便を結ぶ定期便を復活させるなど、関西の地域活性化にも尽力。

若い間に多くの国の人々と接し、バリューシステムが国ごとに違うということも実感してほしいですね。

そうそう、2015年には、Skytrax (英国の航空サービスリサーチ会社)より「ワールド・エアライン・アワード」を受賞しています。

楠見 JAL西日本地区支配人として、今後の抱負、将来を見据えたお考えをお聞かせください。

中野 次の世代への継承を意識しながら、仕事をしています。ここまで私がやってこれたのも、皆様のサポートがあってこそ。私は会社にも、社会に対しても、多少なりとも何か貢献し、次の世代にうまくバトンタッチできればと思っています。大阪、関西は、私の第二の故郷。今後もさまざまな場面でお役に立ちたいと思います。

LEADERS NOW!

■リーダーズ・ナウ [在学生・卒業生インタビュー]

ロケットの低コスト化は国際競争力を高める推進薬

Japan as Number One を誇りに 宇宙の夢を次世代へ

◎システム理工学部 4年次生 上垣 那津世 さん

関西大学から宇宙へ——。JAXA (宇宙航空研究開発機構)と連携して宇宙航空分野を研究する量子放射光物理学研究室・宇宙組の上垣さん。入学直後から宇宙への思いをアピールし続け、念願の宇宙工学の研究室に3年次生の秋から所属。山口聡一朗准教授、研究室の先輩方と実験・データ分析の日々を過ごし、JAXA学会や応用物理学会で研究成果を発表している。関大で活躍する理系女子上垣さんの魅力に迫った。

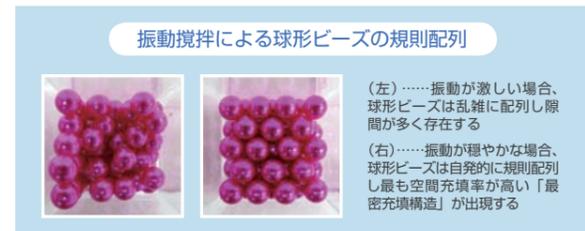
「何を言っているんだ！日本製は最高さ」。時空を超えるタイムトラベルSF映画『バックトゥザ・フューチャー』シリーズのワンシーンが、上垣さんの脳裏に焼き付いている。1985年のmade in Japanを目の当たりにした若き主人公が、老博士の放った言葉「日本製はダメだ」に対して間髪入れずに返したセリフだ。宇宙に魅せられた上垣さんは「両親が洋画好きで、10歳ぐらいの時に見ました。タイムマシンを修理する際に日本の技術を褒めたたえるシーンがあって、今でも印象に残っています」。はにかんだ笑顔で、白い歯を見せた。

研究テーマは「固体燃料ロケット推進薬のX線CT分析・捏和理論」。推進薬の混合方法を見直し、量産化を成功させることで、低軌道人工衛星の打ち上げ費用を大幅削減へと導く。研究室の先輩が長い時間をかけて丁寧に燃料を混合した結果、粒子間に余分なすき間がない規則的な配列が確認された。穏やかな攪拌により、最も空間充填率の高い「最密充填構造」が出現。燃料の粒が綺麗に並ぶことで燃焼が安定し、ロケットが美しい軌道を描く。「量

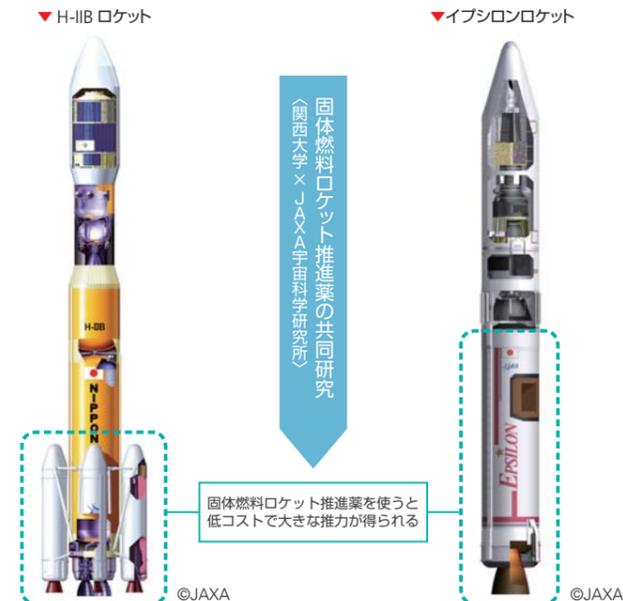


上垣 那津世 —うえがき なつよ
 ■1994年、兵庫県加古川市生まれ。兵庫県立加古川西高等学校卒。システム理工学部4年次生。固体燃料ロケット推進薬のX線CT分析・捏和理論などを研究。趣味はアサリ飼育と一眼レフカメラ。

産化の成功が低コスト化につながり、今まで以上に衛星打ち上げが可能になります。さまざまな地球観測データをビックデータに融合し国際ビジネスに活用することで、日本のICT (情報通信技術)国際競争力が上がります。現在莫大にかかっているコストを大幅に削減できる見通しだ。単純計算で1機の打ち上げコストで17機打ち上げることが可能となる。高速宇宙輸送機、衛星情報ネットワーク、地球観測衛星など宇宙航空産業分野への推進薬となるだけではない。「粒子配列が確立されれば、さまざまな分野で応用できます。粘度が高く、セメントや乳製品、製薬にも同じ原理で応用できることは非常に強みとなります」。



システム理工学部物理・応用物理学科を選択した理由もあくなき探求心から。高校時代に友人から「電車が走っている時に近くの電車は速く見えるのに、遠くの電車は遅く見えるのはなぜ？」と問われ、困惑した。「何も答えられなかったです。その時に「物の理はすべて物理から始まる」と思いました。物理を学ぶことですべての事象を説明できるはずですから」と上垣さん。大学入学後からゼミで「宇宙工学を研究したい」と訴え続け、3年次生秋から山口准教授率いる研究室にたどり着いた。星座の本を眺める日々を過ごした小学校時代、段ボールと虫眼鏡で天体望遠鏡を自作した中学校時代、宇宙工学の可能性を確信した高校時代、宇宙との距離を一気に縮めた大学時代。「関西大学はJAXAとの連携もあり、宇宙工学への道は開けています。宇宙への夢、研究の成功は後輩に託します。いつの日か、私たち宇宙組の研究が成功したとニュースで見る日が来ることを楽しみにしています」。卒業後は日本を代表するメーカーで、原子力部門の設計や開発を担当する予定だ。「この研究室で培った論理的思考、粘り強く取り組む姿勢を社会でも生かせると思います」。「Japan as Number One」の誇りを胸に、上垣さんは挑み続ける。



街を器に花で彩る

花を生けることで、その街の良さを知ってもらいたい

◎華道家 西村 良子 さん —社会学部 2010年卒業—

歴史と伝統が詰まった木屋町通りにある元・立誠小学校。京都市内に現存する最古の鉄筋コンクリート造校舎が、華道家西村良子さんの活動拠点だ。ハードルが高いと思われがちな生け花を、より身近に感じてもらうため、街を器に花を生ける西村さん。花を“きっかけ”に、街の良さを知る機会を演出している。



祇園・清水エリアの玄関口・阪急河原町駅から徒歩3分。悠久の京文化を見守る鴨川と並行するように、高瀬川が流れている。1611 (慶長16)年に開削され、かつては京都一伏見間の物資を輸送する舟運でにぎわい、森鷗外の『高瀬舟』の舞台となった川だ。全長10km幅7mのその川に、再び息吹を与えている女性がいる。華道家の西村さんだ。自身が代表を務める西村花店のメンバー3人と、バラやあじさいなど約500本の花を6時間ほどかけて川面に生け、彩っていく。普段は通り過ぎる外国人観光客が川沿いで足を止め、それぞれの言語で「美」を表現し、写真を撮る。「そのままなら、川があるで終わるかもしれませんが、花を生けることで“高瀬川”を見てもらえます。花があることで、川の流が鮮明に見えますし、その場所の良さを知るきっかけになればうれしいですね」。

関西大学入学後、卒業後の明確なビジョンはなく「何をして生きていけばいいのか…。楽しいことないかな」と曇天の日々を過ごしていた。2年次生の2007年、何気なく見ていたテレビ番組が西村さんの人生を変えた。フランス・パリのブティックのショーウィンドーを鮮やかに飾るバラ。多様な色と魅力を秘めたバラが織り成す幻想的な空間に感銘を受けた。「これは楽しそうだな」と、翌日には花屋のアルバイトを決めた。翌年からは、二等辺三角形の中に天・地・人の三枝を当てはめて宇宙の真理を表現する華道・嵯峨御流の教室に通うようにもなった。卒業後は生花店で働きながら、街の人や京都市の協力を得て通りや川に花を生ける“ストリート花展”を展開。

2015年には、オランダ・アムステルダムで文化や芸術などさまざまな分野の活動に挑戦できる滞在型プロジェクト Artist in



Residence “Deshima AIR”に参加し、個展「United Flowers Amsterdam」を開いた。アムステルダム国立博物館前の運河沿い約60mに及ぶ“花の波”は、喝采と感謝の声を浴びる大成功に終わった。「世界で活躍したいと思っていましたし、花の本場で現地の人に喜んでいただけて本当にうれしかったです。社会学部で教わった「常識を疑え」を胸に、老舗・京都有数の花ばさみを手に挑んだ国際舞台。芽生えた自信は、4カ月の濃密な海外生活で確信へと変わっていた。

日本ならではの四季に折々の美しさを大切にしたい。「春から夏にかけて光が増えていき、秋は色彩が溢れ、冬になるにつれて空気が澄んでいきます。花は季節の移ろいを目に見える形で示してくれます。四季の象徴だからこそ、季節に合う花を街や川に生きたいですね」。現代の生け花をより身近に感じてもらうため、西村さんは率先して独創的なアイデアを実行している。

「日本には、『花は、野にあるように』という言葉があります。花は自然のままに咲いているのが一番美しいという意味です。自然に美しく生まれた花を、自分の手で美しくすることはできないと思っています。それでも私達が花を切って生けるのは、生けた花によって器や空間を美しく見せることができるからです。そうすることができて初めて、花を切る事が許されるのではないかと思います。歴史や物語を積み重ねた建物や街を器に、その器に合った花を生きたい」。西村さんの生け花は“きっかけ”を演出し、街を色鮮やかに咲かせている。

西村 良子 —にしむらりょうこ
 ■1988年京都市生まれ。2006年京都府立東稜高等学校卒。10年関西大学社会学部卒。西村花店主宰、高瀬川会議代表、華道嵯峨御流正教授。卒業論文「二つの現実、一つの観葉植物」は社会学部優秀卒業論文に選ばれた。15年から京都市建設局都市緑化審議会委員、先斗町まちづくり協議会事務局まちづくりアドバイザーも務める。国内外の多方面で活躍している。

■研究最前線

絵本や児童文学の魅力を探求

絵本の力を伝える案内人として

“心の遊び場”となる作品を紹介

●外国語学部
石原 敏子 教授

「日常生活から一瞬にして別世界へと連れて行ってくれ、そこに好きなだけ滞在し、また帰って来ることができるのが絵本。そして、戻ってくると以前とは違う気持ちになっているのです」。穏やかなまなざしでそう語る石原敏子教授は「絵本には人を支える力がある」と身をもって知った。絵本は子供のためだけにあるのではない。その力をより多くの人へ届けるため、英米絵本や児童文学の紹介に精力的に取り組む。

■2度の闘病生活で出会った絵本

—まず、絵本に興味を持ったきっかけをお聞かせください。
私はこれまでに2度、大病をしました。最初がんになった時、それまで従事していたアジア系アメリカ文学の研究を続けるのが困難になりました。戦争や越境、人種問題など、社会に受容されない人達の生活を描く作品が多く、そうした厳しい内容を扱うには精神的・体力的に無理があったのです。それで、心地の良い物を求めて児童文学を扱い始めたところに、再度がんを発症しました。2度目とはいえ心の準備は全くできておらず、どのように闘病生活を送れば自分らしくいられるのかを考えた末、自分の読みたい本、集め始めていた絵本を読むことにしました。
—その時に読んだ絵本の一部を紹介したのが、エッセー『わたしのくすり箱(2009)』ですね。

—そうです。入院中、毎日1冊ずつ、母と姉が絵本の読み聞かせをしてくれました。それはとても快く、手術や治療の不安を乗り越える助けとなりました。特に好きだったのは『おやすみなさいおつきさま』(文・マーガレット・ワイズ・ブラウン/絵・クレメント・ハード)。部屋の中や外にあるものに「おやすみなさい〇〇」と声をかけていく、単純なフレーズの繰り返しで構成されたこのお話は、早すぎる消灯後、さまざまな不安と闘う私に静かな



眠りをもたらしてくれました。手術後当初は目で文字も追えない状態でしたが、徐々に声を出しても読めるようになり、また、読む絵本の幅も広がっていきました。このように、絵本は日々の快復を実感させてくれる存在であったのです。

—そうした経験は「絵本には人を支える力がある」という確信につながり、退院後、私を支えてくれた数々の絵本を多くの人に伝えたいと思うようになりました。そこで、「眠れない夜」[希望]等のテーマ別に20作品を選書し、エッセーとして紹介したのです。

■貴重な絵本を整理し、紹介する

—最近では、トーマス・ロッカーの絵本33作品を紹介されていますが、多くの絵本作家の中から、彼に着目した理由とは？

—以前、アメリカ合衆国を彩る豊かな自然に対し、絵本作家達がどのような表現を与えてきたか、100冊を超える絵本にあたってその傾向を分析しました。その際、特に目を引いたのが、まるで美術館に飾られる名画のような風景を描くトーマス・ロッカーで

した。彼は、19世紀に起こったアメリカ最初の芸術運動ハドソン・リヴァー派の流れを組む画家で、時にネイティブ・アメリカンの宇宙観を反映した絵本を制作しています。中でも衝撃を受けたのは『Between Earth & Sky』という作品。少年がおじから、自分達の先祖が7つの方位—東西南北、天と地、そして自分の心—を持っていたことを教わるお話で、“何事の始まりも自分の心にある”と強く印象付けられました。

彼の作品が日本で紹介されることは少なく、また原作品も入手しづらくなっています。入手できた33作品を研究ノート『トーマス・ロッカー絵本の整理と展望(2015)』で紹介しました。

—英米の作品だけでなく、日本の絵本“ちりめん本”の整理も手掛けられたと伺っています。

ちりめん本は、明治時代半ば、日本のおとぎ話などを英語、スペイン語等に翻訳し、美術品とも呼べる絵本として出版したもので、お土産として海外へ渡ることが多かったようです。そのような貴重な資料が関西大学図書館に所蔵されていたので、今後もより活用されるべく、整理して、『関西大学図書館所蔵ちりめん本の整理』として外国語学部紀要で紹介しました。日本の絵本の形成には翻訳が重要な役割を果たしており、その歴史においてちりめん本は大きな意義を持っています。



—先生は、優れた作品をより多くの人に紹介したいとお考えなのですね。

—まず一番に作品分析や作家研究が大切です。その上で、必要な読者に適した絵本が届けられることを目標としています。ある絵本作家は、絵本が「人生の真実」を伝えるとしており、私は「哲学」を含むと考えています。より多くの人が絵本に出会うきっかけを作る“作品の案内人”になりたいですね。

■絵本は“自分を映しだす鏡”

—絵本の面白さはどこにあると思われますか？

—絵本は、絵と文字の総合芸術です。文学作品の場合は文字を読みながら自分でストーリーを視覚化していきますが、絵本には絵があり、自分がそれをどう読み取っていくのが重要なところ。絵の中には文字で説明されていないものたくさんあります。読者は絵から自由に見たいものを見る半面、見たいものしか見ていません。つまり、絵本は“自分を映す鏡”なのです。「あなたに見え



ているものと、隣の人が見ているものは全然違う」。そのことから自分の物のとらえ方に気付いてほしいので、ゼミでは同じ絵本からそれぞれ何を読み取ったかを常にディスカッションしています。

—それからもう一つ、“In a book you can hold the imagination of another person in the palm of your hand and explore it at your leisure—true magic. (他の人の想像力を手のひらに乗せ、いつでも好きに探索できる、本は、まさに魔法。)” —これはモーディカイ・ガーシュタインという絵本作家がコールドコット賞を受賞した際に述べた言葉です。彼の言うように、絵本の読者は、作者の想像力を手にし、絵本の32ページという小さな空間の中で、ストーリーに沿いながら、読みの速さや方向を自由に決定し、作者と共に一つの遊び場“宇宙”を創り上げ、また現実との間を自由に行き来することができる、そこに絵本の面白さがあります。

■作品の魅力幅広く発信する

—学外での活動についてお聞かせください。

—私は阪神・淡路大震災で被災し、その後、姉の住む静岡に避難しました。そこでお世話になった方々へ、感謝の気持ちとして定期開講したのが、英米文学作品を学ぶ講座“スパイラルの会”です。1995年から昨年までの65回、述べ1,300人の参加者と文学作品を学び、受講料は震災被害等で困っている方々に寄付しました。

—また、そこから発展した活動として、2011年から3年間、大人向けに“絵本の会”を開催しました。厳選した絵本を紹介し、歴史的背景を学び、朗読や音楽で楽しんでいただく内容です。こちらもボランティア・チャリティー活動として、述べ350人の参加者が集いました。

—現在は、公立図書館で絵本講座などを不定期で開催し、またゼミ学生は、幼稚園などで、子供達に英語絵本の読み聞かせ「英語で絵本を楽しもう！」を行っています。子供はもちろん学生にも、皆で読むこと、読み聞かせすることの楽しさを知ってほしい。そうすれば将来、彼らが周囲の人に読み聞かせをするかもしれず、絵本に触れる人が少しでも増えるのではと期待しています。

—今後もさまざまな形で、優れた絵本が多くの人の手元に届くよう努めていきたいと思っています。



研究のための絵本コレクション。
(写真中央)トーマス・ロッカー
『Between Earth & Sky』▼

研究最前線

金属錯体の合成による抗がん剤の研究

多様ながんにも有効な治療薬を目指して

新しい光線力学的療法と画像診断薬の開発

●化学生命工学部
中井 美早紀 准教授



近年における日本人の三大死亡原因はがん、心疾患、肺炎であり、3人に1人ががんにより死亡している。がんの克服は日本人のみならず、人類にとっての重要課題だが、現在使われている一般的な抗がん剤は副作用が強く、がんの種類によっては大きな効果が得られないと言われている。中井美早紀准教授は、金属錯体を用い、副作用が少なく、多様ながんにも有効な治療薬の開発を目指す。

がん細胞を抑制する金属錯体

—まず基本的な質問ですが、錯体とは？

金属が水溶液に溶けた状態を金属イオンといい、その周りに配位子といわれる分子やイオンが結合したものを錯体と呼びます。錯体の種類は無限にあります。すべての金属錯体ががん治療に使えるわけではありません。基本的に、金属は生命にとって毒です。例えば、花瓶の水に10円玉を入れると切り花が長持ちします。これは金属がバクテリアの繁殖を抑えるため。「毒をもって毒を制す」の原理であり、薬剤にも同じ法則が適用されています。人間にとって毒となるものはがん細胞にとっても毒。つまり、抗がん作用があるのです。問題は、正常細胞にとっても毒であるため、副作用が出てしまうこと。それらを踏まえ、私たちは薬剤として使える金属錯体を選別し研究、開発しています。

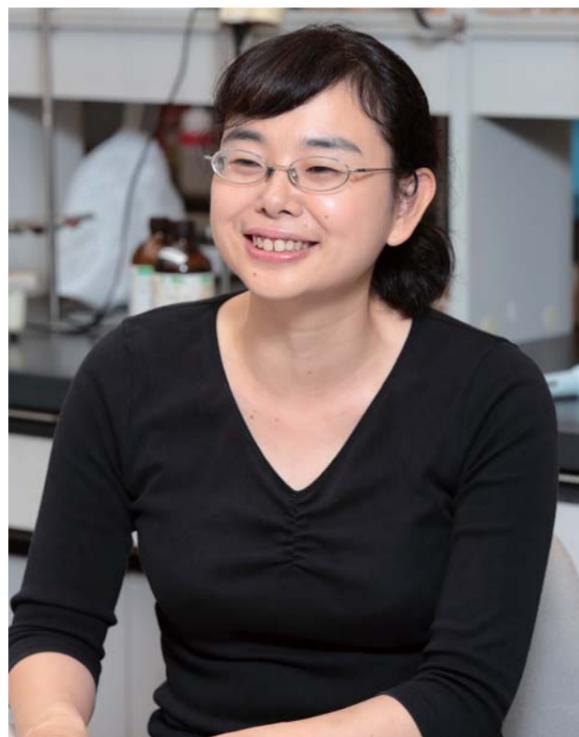
—現在、抗がん剤として広く用いられているのはシスプラチンですが、これはどのような錯体なのでしょう？

中心が白金の錯体で、配位子はアンミンと塩化物イオンです。水に溶かすと塩化物イオンが水イオンに置き換わり、DNAと結合してその立体構造をゆがませることでDNAの複製を妨げ、がん細胞を死滅させます。副作用として、主に脱毛、嘔吐などの症状が挙げられます。

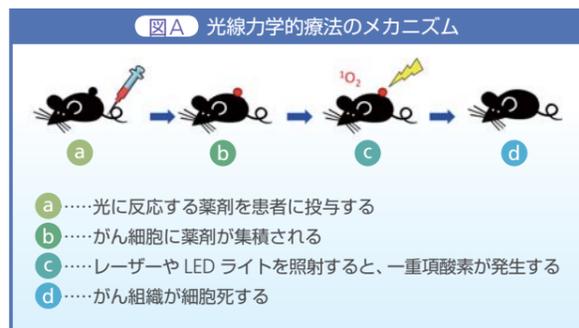
安価で副作用の少ない光線力学的療法

—中井先生が研究されている光線力学的療法とは？

ルテニウムや亜鉛の錯体を用いた光に反応する薬剤を患者に投与し、がん細胞に薬剤が集積されたのを見計らって光を照射する



療法です。これにより薬剤が活性化し周辺の溶存酸素にエネルギー移動を起こすと、溶存酸素は活性化されて活性酸素の一つである一重項酸素となります。活性酸素といえば悪いイメージがありますが、がん細胞に対しても非常に強い毒性を持っており、これがDNAを酸化し切断することで抗がん作用を示すのです(図A)。この療法は、既に緑内障や皮膚がんの臨床に応用されており、膀胱がんへの応用も検討されています。



—この療法のメリットとは？

化学療法だと薬剤が全身に届き、特に腎臓や肝臓に集積され、そこに毒性がかかりますが、光線力学的療法では光を照射した箇所だけが毒性を生み出すので、他の場所には影響がありません。

また、レーザーやLEDライトを使用するため、放射線治療のように大がかりな装置も必要とせず、低費用で治療できます。特に亜鉛は安価で入手することができ、さらに、金属イオンを挿入することで活性酸素発生能が向上するといった効果も見られます。



—先生が行われている、さらに一歩進んだ研究とは？

現状、光線力学的療法の臨床ではポルフィリン化合物を用いていますが、私たちはこれに代わる、より効果の高い化合物の開発を進めています。ポルフィリンは光、特に可視光を多く吸収するうえ、体内で十分な安定性を示し、修飾(合成)しやすいという特性を持っています。しかし、深部のがんにはなかなか良い効果を示さないため、光の種類や波長を変え、さらに吸収しやすい化合物を探しているのです。今は、培養したがん細胞を使っての実験段階ですが、これがうまくいけば、次はマウスでの試験となります。

また、ポルフィリンは水溶性に乏しく、体内から排出されるのに時間がかかるという難点もあります。薬剤が体内に残っているうちに日光に当たると、全身に活性酸素による症状が出てしまうため、投与された患者は一定期間、暗所で安静にしていなくてはならないのです。これまで私たちは抗がん薬として糖質を導入した亜鉛錯体の開発を行ってきました。糖質を連結させると水溶性が向上し、薬剤が全身に回りやすくなり、代謝も早まります。この技術を光線力学的療法にも応用できないかを検討しています。

さらにポルフィリンに糖質を連結させると、水溶性の向上だけでなく、がん細胞のみに取り込まれやすくなります。がん細胞は増殖するスピードが非常に速く、その分他の細胞よりも多く養分を集める特性があります。その養分の一つが糖質。つまり、がん細胞が糖質を集める癖を活用するというわけです。

画像診断薬としての糖連結ポルフィリン剤

—がんの画像診断薬に糖質を導入する研究もされているとか。

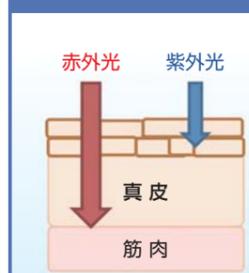
ポルフィリン誘導体は、がんの画像診断薬としての応用も広く研究されています。例えば、アミノレブリン酸は代謝されると、ポルフィリン誘導体が合成されます。がん細胞は生成したポルフィリン誘導体を代謝することができないため、光を照射するとその部分だけが光ります。本来がんは、その疑いがある箇所すべてを切除したいところですが、脳などの場合はそういうわけにはいきません。ポルフィリンを用いた画像診断薬は、MRI等の大型機器を使用したり病理検査をしたりしなくても、その場ですぐがん細胞を特定できます。ハンディーで治療の初期費用が抑えられることもメリットです。このようにポルフィリン誘導体は光線力学的療法のみならず、画像診断薬にも応用でき、がんの早期発見・早期治療にとって非常に魅力的な物質の一つです。

実際のがん細胞への応用に向けて

—今後の展望をお聞かせ下さい。

現在いくつかの研究を進めています。中でも注力したい研究が二つあります。一つは、光を用いてできる限り生体内の恒常性を乱さない抗がん剤を開発すること。深部のがんにも対応できるように、皮膚透過性が高い赤外光に着目し、赤外領域に大きな吸収

図B 長波長吸収をもつ光線力学的療法薬



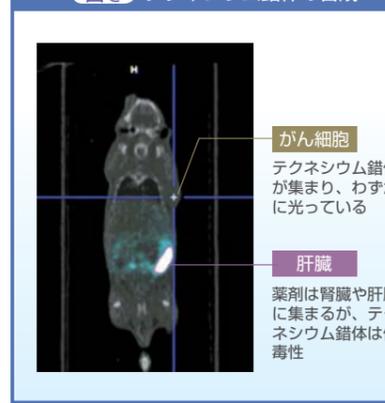
帯を持つ金属ポルフィリンを探求しています。赤外光に近づけば近づくほどその物質の持つ励起エネルギー準位は低くなり、活性酸素の効率が良くないので、その兼ね合いが非常に難しいところですね。

既にこの研究はマウスを用いて実験する段階まで進んでいますので、臨床まで持っていく、実際のがん細胞に応用したいと思っています(図B)。

もう一つは、がん悪性化の原因の一つであるがん幹細胞の診断薬を開発すること。こちらは一昨年の9月より1年間、カナダのサイモンフレイザー大学へ赴き、共同研究を進めてきました。多くの悪性がん細胞は低酸素状態にあるのですが、酸素のないところでは光線力学的療法は使え

ません。しかも、低酸素状態は時間によって変化するため、リアルタイムで診断する必要があります。そこで低酸素状態のがんを特定して狙える放射性元素・テクネシウムの錯体を開発中であり、こちらもマウスを用いた実験を行っています(図C)。まだ、がん光が集まっているはっきりとした画像は撮れていませんが、今後はもっと鮮明に確認できるようになります。

図C テクネシウム錯体の合成



Topics ■トピックス [学内情報]

◎関西大学創立130周年記念事業

日本・オーストリア両国公演「豊臣期大坂図屏風コンサート」 一つの屏風が日本とオーストリアの歴史と音楽をつなぐ



縦横をバックに演奏するグラーツ・フェスティバルストリングスと鶴澤清氏(三味線)



▲グラーツ・フェスティバルストリングス、関西大学交響楽団、混声合唱団ひびき、グリークラブによる共演

8月9日、関西大学は、創立130周年記念事業の一環として、日本・オーストリア両国公演「豊臣期大坂図屏風コンサート」をフェスティバルホール(大阪市北区)にて開催した。

このコンサートは、これまで関西大学が共同研究を進めてきた「豊臣期大坂図屏風」の縁に基づき、大阪およびオーストリア・グラーツの両都市においてクラシックコンサートを開催するというもので、8月1日、グラーツの世界遺産エッゲンベルク城で行われた公演に続いての開催となった。

当日は、「豊臣期大坂図屏風」に関するセミナーや、グラーツの弦楽団グラーツ・フェスティバルストリングスによる大坂図屏風をテーマにした新作の初演に加え、スウェーデン出身のジョン・スヴィングハンマー氏の指揮のもと、関西大学交響楽団、関西大学グリークラブ、関西大学混声合唱団ひびきとグラーツ・フェスティバルストリングスが共演。ドヴォルザークの交響曲第6番をはじめとする素晴らしい演奏に、集まった約2,000人の来場者は皆うっとりとして聴き入っていた。

◎なにわ大阪研究センター開設記念シンポジウムを開催

新拠点から 魅力あふれる大阪の文化を発信



7月16日、関西大学は、今年4月に設置した大阪文化の新拠点「なにわ大阪研究センター」の開設記念シンポジウムを千里山キャンパス・100周年記念会館にて開催した。

当日は2部構成で、第1部では講師の旭堂南海師が講演「関西大学物語」を披露した。この演目は、本シンポジウムのために制作されたオリジナルで、関西大学の歴史がテーマ。約300人の来場者は時折声を出して笑いながら、熱心に耳を傾けていた。



旭堂 南海師

続く第2部では、公益財団法人関西・大阪21世紀協会理事長を務める堀井良殿氏による基調講演「なにわ大阪再発見」が行われ、大阪が誇る文化の魅力について語られた。また、住吉大社や大阪天満宮の宮司らを交えた「なにわ大阪研究センターへの期待」をテーマとするパネルディスカッションも実施され、今後の本センターにおける研究の方向性や社会貢献の在り方などについて、活発な意見交換が行われた。



「なにわ大阪研究センターへの期待」をテーマに実施されたパネルディスカッション

▲公益財団法人関西・大阪21世紀協会理事長、堀井良殿氏による基調講演の様子

◎アイスアリーナ創設10周年記念エキシビジョンを開催

アイスホッケー部とトップスケーターらが氷上で魅せる



アイスホッケーエキシビジョンマッチ

関西大学では7月10日、創立130周年記念事業の一環として、高槻キャンパスの関西大学たかつきアイスアリーナ(旧称: 関西大学アイスアリーナ)において、「アイスアリーナ創設10周年記念エキシビジョン」を開催した。

本アイスアリーナは2006年、日本の大学では初となる国際競技規格を満たすスケートリンクとして誕生。以来、本学学生の正課授業や課外活動の拠点になるとともに、高槻市主催のイベントや近隣の小・中・高等学校及び他大学に対しても開放するなど、地域と共に歴史の歩を進めてきた。

エキシビジョンは、本学と関西学院大学の体育会アイスホッケー部によるエキシビジョンマッチで開演。駆けつけた約450人の一般市民や学生達は、目前で繰り広げられる迫力満点の試合に目を奪われ、選手同士の激しい衝突音やシュートのスピードに歓



宮原知子さん

本田真凜さん

声を上げた。続くフィギュアスケートエキシビジョンでは、ジュニア・トップスケーター総勢23人が華麗なショーを披露。2016年世界ジュニア選手権大会優勝の本田真凜さん(関西大学中等部3年生)や2016年世界ジュニア選手権大会出場の中村優さん(政策2)、全日本選手権2連覇中の宮原知子さん(文1)らの美しい演技に、観客は酔いしれた。

◎本学現役学生がリオデジャネイロ五輪日本代表に

高野芹奈さんがセーリング競技で五輪初出場



8月12日から行われたリオデジャネイロ五輪セーリング競技のスキフ49erFX級に、体育会ヨット部の高野芹奈さん(人1)がセーリング史上最年少で出場し、健闘を見せた。

高野さんは、関西大学第一中学校3年生から競技を始め、2014年の仁川アジア大会で4位入賞、15年の世界選手権で3位入賞と飛躍的な成長を見せてきた。今年3月にアラブ首長国連邦で開催



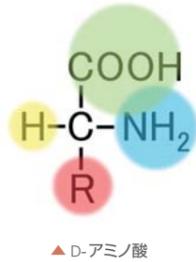
写真提供: (公財)日本セーリング連盟

されたアジア選手権大会には、11歳離れた宮川恵子さん(和歌山セーリングクラブ)とペアで出場。年齢差を感じさせない息の合った操船で見事、優勝を果たし、リオ五輪への切符を手に入れた。6月29日に千里山キャンパスで行われた壮行会では、集まった学生や教職員ら約250人から熱いエールが送られた。「海上のF1」と呼ばれるほど激しい競技にもかかわらず、わずか3年4カ月という最短の競技歴で五輪出場を叶えた高野さん。今後の活躍にさらなる期待が寄せられる。

■社会貢献・連携事業

◎老川典夫教授と福山黒酢との共同研究

果実の風味を楽しめるドリンク「生フルーツ黒酢」を開発



◀ D-アミノ酸強化黒酢の仕込み風景

D-アミノ酸は、食品の旨味を引き出すと共に、美肌作用や肌の老化予防に関与するといわれる成分。今回の共同研究により開発したD-アミノ酸強化黒酢には、このD-アミノ酸が通常の黒酢の2倍以上も含まれていることが明らかとなり、今後の展開にも期待が寄せられている。

老川教授はこれまでに、日本酒の旨味に関与するD-アミノ酸を特定することに成功。さらにそのD-アミノ酸は乳酸菌が生産することを解明し、この知見を生かして本年、本コラボ商品の開発により関西大学科学技術振興会から「学の実化賞」を受賞している。



ピュアミノセット GFR-6
 〈商品価格 2,880 円 (税込)〉
 ・生フルーツ黒酢 りんご 100 ml×1
 ・生フルーツ黒酢 ブルーベリー 100 ml×1
 ・生フルーツ黒酢 いちご 100 ml×1

▼ 関大パンセのアンテナショップでインターネット販売

<https://www.kandaipenseeshop.jp/products/detail/28>

D-アミノ酸研究において数々の実績を持つ化学生命工学部の老川典夫教授と、玄米黒酢で知られる福山黒酢株式会社が共同開発したD-アミノ酸強化黒酢を使用した「生フルーツ黒酢」のセット販売が開始された。このドリンクは、老川教授が黒酢醗酵から分離したD-アミノ酸高生産乳酸菌を、黒酢仕込み時に添加して醸造したD-アミノ酸強化黒酢に、国産の新鮮な果実をたっぷりと漬けて作られており、冷たい水やソーダ水で割るのはもちろん、アイスクリームやヨーグルトにかけてもおおいしくいただける。味はりんご、ブルーベリー、いちごの3種類で、子供からお年寄りまで幅広い年齢層に飲みやすいと好評だ。

◎関大生も選挙に行こう！

千里山キャンパスに参院選の期日前投票所を初設置

6月27日、千里山キャンパスで第24回参議院議員通常選挙の期日前投票及び不在者投票が行われた。約2万5,000人もの学生が通う同キャンパスの大学構内に期日前投票所を設置するのは初の試みであり、当日は投票所付近に看板・ポスターが設置され、吹田市選挙管理委員会と学生ボランティアが啓発チラシや啓発グッズを配布して、学生や近隣住民に投票を呼び掛けた。

この取り組みは、選挙権年齢の引き下げや若年層の投票率の低下などを背景に、選挙をより身近に感じる環境を作り、政治に対する関心を喚起すること、そして将来的な投票率の底上げを目的として、吹田市選挙管理委員会と共に企画したもの。投票を訪れた18歳の学生は、「選挙権年齢が引き下げられたことをうれしく思う。若い世代で世の中を引っ張っていきたく」と力強い言葉を発し、投票所設置については「授業の合間などに投票できるのでとても便利」と語った。



▲千里山キャンパスで投票の呼び掛けを行う学生ボランティア



大学構内に初設置された期日前投票所▶

今年も3キャンパスが大にぎわい 市民参加型のキャンパス祭開催！

高槻キャンパス祭 2016

学生と市民が多彩な催しで交流

5月29日、総合情報学部祭典実行委員会の企画・運営のもと、高槻キャンパス祭2016が開催された。22回目を迎えた今年のテーマは「WA!!!」。“話”“輪”“和”という意味を表しており、イベントに参加する方に楽しんでほしいという思いが込められた。学生によるステージ企画や研究発表、応援団による演舞、フリーマーケットなど、さまざまな催しが行われた。

また、松下光範教授による講演「使いやすいをデザインする」やスタジオ体験イベントなども行われ、キャンパス一帯は終日大盛況。約2,600人もの来場者の“WA”が広がった。



堺キャンパス祭 2016

楽しいイベントで地域とつながる

6月5日、人間健康学部祭典実行委員会を中心に、第6回目となる堺キャンパス祭2016が開催された。今年のテーマは「SAI～最高の祭で彩る堺～」。世代を超えて多くの方々楽しんでほしいという思いが込められた。

模擬店をはじめ、親子で参加できるワークショップ、地域の子供達とのスポーツ交流や教員と学生によるプロジェクトアドベンチャー体験など、幅広い年齢層の方々楽しめる催しが数多く行われたほか、体力測定なども実施され、地域社会との連携を推進する人間健康学部らしい内容となった。当日は、あいにくの天候にも関わらず約1,800人の来場があり、笑顔溢れる一日となった。



第2回高槻 ミュージックキャンパス祭

体験型企画で、楽しみながら学習する

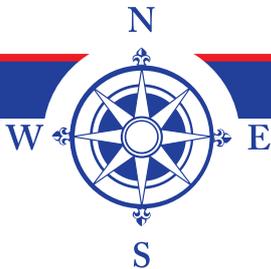
6月19日、「Let's防×祭 みんなで防災の意識を高めよう！」をテーマに、高槻ミュージックキャンパス祭が開催された。当日は応援団吹奏楽部によるコンサートで開幕。模擬店や、高槻市で人気のご当地グルメ・物産品の販売、警察・消防の方を招いての企画、防犯グッズ作製体験、防災学習ゲーム、地域自治会による炊き出しランチなど、多彩なイベントで盛り上がった。

また、卒業生でFM802のDJを務める内田絢子氏と樋口大喜氏、ケーブルテレビ局J:COMで放送中の「デイリーニュース高槻・島本」に出演する通山菜氏を迎えてのトークセッションも開催。会場は地域住民の方々や学生など、約1,500人の来場者でにぎわった。



KANDAI NEWS

■ 関大ニュース



熊本地震で被災された方への支援活動を展開 日本赤十字社を通じ、災害義援金を寄付



関西大学は、5月9日から20日まで、ボランティアセンターを中心に熊本地震災害義援金募集活動を行った。集まった義援金は971,974円で、日本赤十字社を通じて被災地に届けられた。6月2日には、本学関係者が日本赤十字社大阪府支部を訪れ、義援金目録贈呈式を挙げる。木谷晋市副学長から日本赤十字社大阪府支部事務局長の服部道代氏に目録が贈呈された。代表学生として式に出席した公門大輔さん(文3)と首藤優実さん(社2)は、「誰もが被災地や被災された方々のために何かしたいと思っていて、義援金にはその気持ちが込められている。役に立てたらうれしい」と、一日も早い復興を願いつつ、思いを語った。

第39回総合関関戦で 関西大学と関西学院大学の体育会が大接戦

6月17日～19日、体育会伝統の交流戦「総合関関戦」の本戦が開催された。39回目を迎えた今年のスローガンは「真志」。全員が真摯に試合と向き合い、勝利を志すという意味が込められた。関西大学は、前哨戦を8勝7敗で10年ぶりに勝ち越し。最終日の最終競技まで総合優勝の行方が分からない白熱の試合を繰り広げて健闘するも、あと一歩及ばず、総合成績は15勝17敗で関西学院大学が勝利した。これにより、通算成績は関西大学の16勝22敗となった。



写真提供：関大スポーツ編集部

体育会サッカー部が第45回関西学生サッカー選手権大会で優勝！ 総理大臣杯へ2年ぶりに出場



6月5日、ヤンマースタジアム長居で第45回関西学生サッカー選手権大会の決勝戦が行われ、体育会サッカー部が3年ぶり8度目の優勝を果たした。この結果、8月6日から長居公園内の各スタジアムを中心に行われた第40回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントに、2年ぶりに出場した。1回戦では北海道教育大学岩見沢校に大差で勝利するも、2回戦で順天堂大学に惜敗し、チーム目標の「全員サッカーで日本一」には届かなかった。

梅田キャンパスの愛称決定

今年10月、関西大学は大阪市北区鶴野町に新たな拠点「梅田キャンパス」を開設する。大学関係者を対象にその愛称を募集し、6月27日、応募総数506点の中から塚本涼馬さん(社3)の「KANDAI Me RISE(かんだいみらいず)」が選定された。自分(Me)が飛躍する(Rise)という意味が込められており、新キャンパスを起点に未来を描き、羽ばたく関大人を表現している。

創立130周年記念カウントダウンボードを設置



来る11月4日(金)、関西大学は記念すべき創立130周年を迎える。記念日の130日前にあたる6月27日、千里山キャンパス正門横にカウントダウンボードが設置され、除幕セレモニーが開催された。当日は、本学学生・教職員らが見守るなか、白い布で覆われていたボードがお披露目され、電光掲示板に「130」日の文字が鮮やかに浮かび上がった。